週　報

日本基督教団　翠ヶ丘教会

since 1964

2026 年度年間聖句

「主は人の一歩一歩を定め
御旨にかなう道を備えてくださる。」
（詩編 37 編 23 節）



どなたにも開かれている定期集会

主日礼拝　毎日曜日　午前 10 時半
子どもの教会　毎日曜日　午前 9 時　～10時
祈 祷 会　各水曜日
○昼の聖書研究祈祷会
（第3・午後2時）
●夕の祈祷会
（第2、第4・午後7時）

牧　師　井殿　準

〒252-0312　相模原市南区相南 2-25-65
TEL. 042-742-1593
FAX. 042-742-1393
ホームページ：http://www.midorigaoka.jp
郵便振替口座　日本基督教団翠ヶ丘教会　本会計
00290-4-80707

3235　2026 年 11 月 15 日

礼 拝 式 順 序

（降誕前第 6 主日）

司式者　井殿　準
奏楽者　岡野和美

前　奏		奏楽者
招　詞	詩編 96：7～9	司式者
讃美歌	140「み神のすまいは」	一　同
聖　書		司式者
	出エジプト 3：1～15（旧 P. 96）	
使徒信条	（93－4－A）	一　同
祈　祷		司式者
讃美歌	54「聖霊みちびく神のことばは」	一　同
説　教	「神はあなたを必要とする」	司式者
祈　祷		〃
讃美歌	443「冠も天の座も」	一　同
献　金		〃
主の祈り	（93－5－A）	〃
頌　栄	27「父・子・聖霊の」	〃
祝　祷		司式者
答　唱	40－6「アーメン」	一　同

～「主の平和を」と、祈りを込めて隣席の方々と挨拶を交わしましょう～

報　告		司式者
讃美歌	91「神の恵みゆたかに受け」	一　同

・当教会では讃美歌 21 と新共同訳聖書を使用しています。お持ちでない方は受付に常備されているものをご使用ください。
・立ち座りのご不自由な方はどうぞ着席のままお臨みください。
・ＦＭ電波による補聴器が用意されています。受付に常備してありますのでご利用ください。
・マスクの着用は個人の判断にお任せいたします。ご心配な方はマスクを着用してください。

先週の説教要旨

「天幕と愛と私と」

（創世記１８：１～１５）

神は姿を変えて旅人としてアブラハムに現れる。アブラハムは、それと知らずに旅人をもてなし、不可能を可能にする神の恵みと祝福を受ける。

アブラハムは、「天幕の入り口」で旅人を出迎え、もてなしたが、聖書において「天幕」とは、遊牧民の移動生活に適した住まいであると同時に、移動聖所を意味するものでもあった。出エジプト記 33 章 7 節他において、天幕は、「臨在の幕屋」と呼ばれ、神と出会う場所を指している。

旅人とアブラハムの会話を天幕の中で立ち聞きしていたサラは、「来年の今ごろ……あなたの妻のサラに男の子が生まれているでしょう」との言葉に、思わず笑ってしまう。自分と夫はすでに年老いており、子が生まれることなどあり得ないと考えたのだ。

そのようなサラが立っていたのは、天幕の中は中でも、「入り口」という天幕の最も外側の端の部分であった。では、我々はどこに立っているのだろうか？我々は、自らの破れ多さを思い、「わたしは神から遠く離れている」と考えるかも知れない。確かに、そういう時もあるだろう。しかし、忘れずにいたいことは、「それでもサラは、天幕の内側に立っていた」ということである。確かにサラは、天幕の中央にいて、神との深い交わりの中にはいなかったかも知れない。しかし、彼女は、少なくとも、天幕の内側、神の愛の内にいたのだ。

主が差し出す杯には、喜びの杯もあれば、苦しみの杯もある。そのような中で、我々は、天幕の中央付近にいる時もあれば、神に不平を募らせ、天幕の隅の方にたたずむこともある。天幕の中をあっちに行ったり、こっちに行ったりしているのが我々の人生であるが、しかし、我々がどれほど弱さや貧しさを露呈しようとも、それでも我々は、主イエス・キリストの十字架の恵みによって、愛の天幕の内に入れて頂いている。

そのことを忘れずに、天幕の内に入れていただいていることに感謝しつつ、いよいよ天幕の中央へと近づいて行くことに努めて歩んで行こう。